



今任期最後の代表質問

感染対策と経済再開！

やすひこ通信

2021. 秋号(No.73)
 発行元：松山市議会議員
 大亀 泰彦
 松山市星岡1-23-20-202
 (089)-956-7647 (FAX兼)
 kg@gamedai.com

【9月議会トピックス】

補正予算の基本方針は三点、

(1) 新型コロナウイルス感染症への対策…希望する全ての市民が安心して新型コロナウイルスワクチンを接種できる体制を確保する為、ワクチンの管理・配送費用、並びにPCR検査費用を追加補正する。中央商店街の空き店舗対策や観光関連業者を支援する為、食をテーマとした旅行商品を造成し、販売に向けた準備を進める。

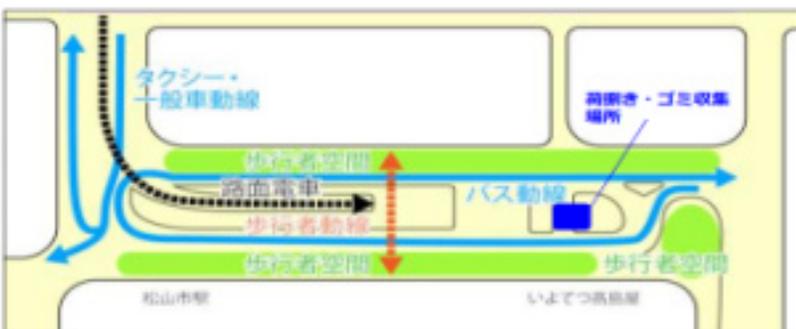
(2) 救急医療体制と地域福祉を充実…松山圏域の二次救急医療体制に新たに加わる医療機関（松山まどんな病院）を支援し、救急医療体制を強化する。高齢者人口の増加に対応する為、地域包括支援センターを現在の12ヶ所から13ヶ所に、サブセンターを1ヶ所から2ヶ所に増やす。

(3) 農業の進行・地域経済の活性化…就農前から経営発展迄の各段階で必要な研修や機械・施設の整備等を支援し、農業後継者の確保・育成を図る。

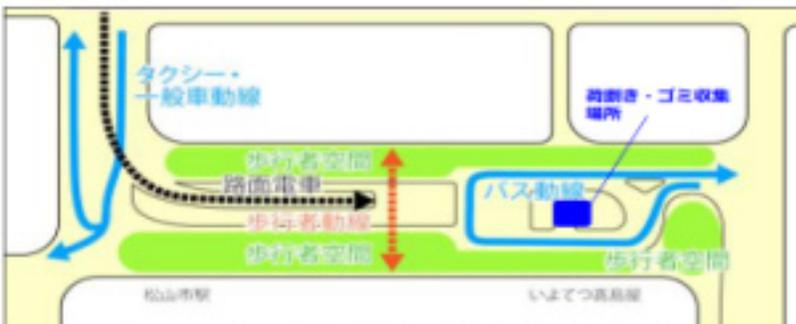
(4) その他…新型コロナウイルス感染症関係で、急増する自宅療養者への対応について、現状のひっ迫する保健所のみに対応から、医師会と薬剤師会と連携し、かかりつけ医のオンライン診療や投薬が必要な場合は薬剤師が配送する等、保健所業務の負担軽減がはかれることとなった。

市駅前広場社会実験

【パターン1：交通影響の検証を目的とした社会実験】（14日間のうち、最初の12日間）



【パターン2：賑わい創出の検証を目的とした社会実験】（14日間のうち、最後の2日間）



● 目的・狙い：市駅前の整備により、人や自動車などの交通の流れが変わることが予想されるので、整備後の状況を現地に作り、交通への影響や賑わい創出の効果等を分析・評価し、今後の整備に反映する。

● 実験期間：11月8日（月）～11月21日（日） 計14日間

● 実験方法：ロータリー内への一般車両などの進入を制限するほか、市駅前の電停周辺を歩行者天国にしてイベントを実施するなど、2つのパターンを行う。

パターン1 交通社会実験：8日（月）～19日（金）

パターン2 賑わい創出実験：20日（土）～21日（日）

県内のプロスポーツ団体や地元商店街、小中学校の文化部等と一緒に家族連れで参加できるイベント等を検討。

● 評価・検証項目

- (1) 交通運用の変更による周辺道路等への交通影響
- (2) バス、タクシー乗り場など、交通施設の利用のしやすさ
- (3) 歩行・滞留空間拡大による賑わい創出の可能性
- (4) 沿道地域及び駅前利用者の意識変化

* 一般市民やドライバーのご理解・協力が不可欠、案内板やチラシ、広報等様々な媒体による事前周知を徹底する。

市長と語る

ドキドキわくわく市駅前出発進行！



市議会は来春、市長は来秋、改選期を迎えます。どちらの任期は4年、来年の選挙では、市民にお示した公約の達成度が厳しく問われます。

野志市政の主要公約の一つであり、私の議員活動のミッションでもある市駅前整備を中心としたまちづくりに、昨今、様々な動きが見受けられます。その進捗と将来展望について、市長と対談しました。



①歩いて暮らせるまちづくり

松山市はコンパクトシティ・プラス・ネットワークをまちづくりの基本方針を掲げ、これまで、ロープウェイ街、道後温泉本館前、そして大街道口、更には花園町通りを、歩道を広くして、自転車道を整備する等、お年寄りや障がい者にも優しく、景観的にも明るくきれいに整備し、内外からも高い評価を受けている。

【市長】松山市はお城を中心にそのまわりにまちがあり、コンパクトだ。坂が少なく、歩きや自転車に適している、更に公共交通も充実しており、その利点を生かすのが良いと思う。まちづくりは、住民との対話が大切、現地現場を一番に考え整備した花園町通りは全国街路事業コンクールで最高位の国土大臣賞を頂いた。今後も変わらぬ姿勢でのぞみたい。

【大亀】戦後、高度経済成長時代、全国のまちでは郊外拡大型のまちづくりを進めてきた。一方、松山市は先輩から引き継いだ城下町の形態を守り、高機能で集約型のまちづくりを進めてきた。これは誇りにできる。今後も良き伝統は守り、後世に引き継いで行きたい。課題は、昨今、役所周辺は建物の老朽化や空洞化が進んでいる。中央図書館を移転する等、商店街と異なる趣きの松山らしい文化的な賑わいを創出し回遊性を強化すべきだ。

②交通まちづくり

市長は、全国で17都市にしか残されていない路面電車に光を当てた政策や公共交通のシームレス化に強い意欲を示している。坊っちゃん列車は、松山市の顔として定着している。市は、土地利用と交通の整合性をとった交通マスタープランを策定し、交通まちづくりを加速化している。

【市長】歳とって、運転免許返上しても、電車やバスで移動がてき、お堀のまわりに住みたいなって方、増えている。一方、若い方で、広い庭があって、自然が豊富で、郊外に住みたいなと言うニーズもある、公共交通を使って、皆さんのニーズにうまく合わせて行くことがすごく大事じゃないかなと思っている。

【大亀】私が議員になって、交通まちづくりを進める為、議会質問等、様々な機会に組織づくりの重要性をうたえてきた。役所内に交通を担当する部署が出来、専門的知識を有した職員が育ち、色んな良い政策を作り実行に移して頂き、現在、全国でも有数の交通先進都市となった。今後、不変の基本方針として法制化が必要、(仮称)松山市交通まちづくり条例の策定に取り組みたい。

③松山市駅前整備

市長は公共交通のシームレス化及びコンパクトシティのシンボル広場として市駅前広場整備を主要公約として掲げ、積極的に推進している。今年4月、役所内に担当課長を創設、今秋、社会実験を経て、基本設計をし、来年度中には事業着手の予定、周辺地区でもホテルや新規出店等の動きが見られる。

【市長】シームレスとは縫い目なし、郊外電車と路面電車の乗り場をひっつける、広場を大きく整備する、こういったデザインで進めている。かえって不便になってはいけなくて、ちゃんと実験をしながら進めて行く。前回の計画から、だいぶの時間がたっているが、今、この時、皆さんと一緒に市駅前を魅力的なまちにして行きたい。

【大亀】私は、20年前に議員になった時、市駅前再開発計画があり、南側の、伊予鉄ターミナルビルが新しくなった時期に前任者から、バトンをひきついだ。その後、リーマンショック等経済危機もあり、結果、整備は進まなかった。今回、アプローチは異なるが再始動するということで感無量の気持ちだ。行政主導では、難しい、商店街や伊予鉄の方々と、協力しながらしっかりとバックアップして行きたい。



